

連絡先:〒700-0905岡山県岡山市北区春日町5-6 岡山県労働組合会議内 いのちと健康を守る岡山県センター  
TEL.086-221-0133 E-mail:okakenro@mx1.tiki.ne.jp URL:http://ww1.tiki.ne.jp/~okakenro/karoshi.htm

## 楽しく生きること、元気に働くことを大切に！

### 2つの講演—中四国から127人が学ぶ

第13回働くもののいのちと健康を守る中四国ブロックセミナーは、6月4-5日広島市の広島ロードビルで開かれ、初日102、2日目103人、二日間のべ127人が参加しました（うちオンライン59人）。



挨拶する佐々木  
実行委員長

広島県実行委員会佐々木敏哉委員長（県民医連会長）が「コロナ感染拡大は医療の脆弱性、対策の遅れ等政府による人災で、労働者の苦難、ジェンダー不平等による男女格差の拡大等深刻な状況がある。ウクライナへ侵略で軍拡、核共有、9条改悪が叫ばれている。参院選ではいのちと暮らし、平和を守る政治の実現をめざそう」と挨拶しました。



### 講演1 「かけがいのない命・150億年の旅」 命はかけがいのなく愛おしいもの— 再び戦争をおこさないで—越智秀二氏

続いて日本地質学会員の越智秀二さんが講演。「宇宙が150億年前にでき、その中から太陽系・地球が46億年前に出来た。地球に生命が生まれ人間が出現したが、それは宇宙でつられた物質で構成され人はこの長い宇宙の子と言える。今も不条理な戦争で多くの命が危機にさらされ核兵器使用の危機もある。人類の英知を結集し戦争を起こさないことを強く願う。」



### 講演2 生きること、働くことを、過労死裁判を通じて考える 被災者の苦しみや悲しみを共有し—埜田和史氏

続いて埜田和史氏（びわこリハビリテーション大学教授、働くものの命と健康を守る全国センター理事長）が講演。

「病院勤務で頸肩腕症障害、過労死などの事案に取り組んできた。労基法で労働条件は「人たるに値する生活を営む必要を充たすべき」としてあるが、実態は大きく乖離し、医師や医療・福祉労働者、教師をはじめとして、睡眠を削り長時間、過重な労働を強いられている。過労死認定基準も過労死ラインまで容認するような内容だ。スウェーデン留学では、人生を楽しく生きること、そのために働くという状況を体験した。被災した人の苦しみや悲しみを共有し、その防止を求める運動が大切だ。」



#### 争議支援の訴え

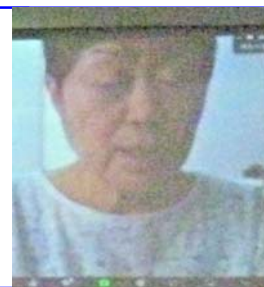
故後河内麻季先生  
過労死裁判を支援する  
会の遺族の訴え



○香川・寶田都子さん「休業補償不支給処分取消請求事件」



○高知・ビキニ訴訟  
団 下本節子氏



### 第1分科会



じん肺・アスベスト  
問題提起：大西哲史氏  
(建交労愛媛県本部)

### 第2分科会



夜勤交代制・長時間労働  
発言：山本佳宏氏(全教)、川角  
純子氏、佐々木隆一氏(国労)

### 第3分科会



労働安全衛生活動  
講師：大山泰弘氏(いのちと健  
康広島センター事務局長)

### 第4分科会



メンタルヘルス  
講師：久常孝佳氏(岡山EAPカ  
ウンセリングルーム)

### 第5分科会



女性の健康と働き方  
講師：田頭愛美氏  
(愛媛自治労連・保健師)



セミナー開催に尽力戴いた現  
地実行委員会の方々  
(受付での検温、消

## 働くもののいのちと健康をまもる中四国ブロックセミナーの経緯と運営

### 一、ブロックセミナーの経緯

1. いのちと健康をまもる全国センターは、安全衛生活動の教訓、経験の交流や活動家の養成などをめざし、1999年以降「働くもののいのちと健康を守るセミナー」として日本の東西で、05年からは各ブロック別で開催。中国ブロックでは05年から中国5県で開催されてきました。
2. 08年全国センターは、ブロックセミナーの発展、地方センターの確立の目標を方針に追加し、ブロックとして中四国を区分。この区分によることや幅広い経験や教訓などを得るために中四国ブロックとして開催し、2009年第1回高知、10年香川、11年山口、12年愛媛、13年広島、14年岡山、15年山陰、16年高知、17年徳島、18年香川、19年山口、20年(コロナ感染で中止)、21年愛媛、22年広島での開催となりました。

### 二、ブロックセミナー実行委員会の運営

こうした経緯を踏まえ、運営は各県代表者による実行委員会の協議により、現地実行委員会で作業をすすめる体制としています。実行委員会は①セミナーの準備、②セミナーの発展、③各県の活動の交流、④地方センターの確立を位置づけて運営することをめざしています。